

3月16日（第3日）

3月16日(金)第3日 午前10時00分開議

出席議員

1番	浜 先 秀 二	2番	上 松 英 邦
3番	吉 野 伸 康	4番	山 本 秀 男
5番	大 石 秀 昭	6番	片 平 司
7番	沖 元 大 洋	8番	野 崎 剛 睦
9番	胡 子 雅 信	10番	林 久 光
11番	住 岡 淳 一	12番	山 根 啓 志
13番	登 地 靖 徳	14番	浜 西 金 満
15番	山 本 一 也	17番	山 木 信 勝
18番	扇 谷 照 義	20番	上 田 正

欠席議員

16番 新 家 勇 二

本会議に説明のため出席した者の職氏名

市長	田中 達美	副市長	正井 嘉明
教育長	万治 功	総務部長	土手 三生
政策推進特命参事	河下 巖	市民生活部長	川寄 純司
福祉保健部長	徳永 信幸	産業部長	瀬戸本三郎
土木建築部長	石井 和夫	会計管理者	川尻 博文
教育次長	木戸佐夜子	消防長	岡野 数正
企業局長	今宮 正志	総務課長	浜村 晴司
財政課長	久保 和秀	企画振興課長	有馬 博之

本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	玉井 栄藏
議会事務局次長	平井 和則

議事日程

日程第1	一般質問
日程第2	議案第38号 平成23年度江田島市一般会計補正予算(第6号)
日程第3	議案第39号 平成23年度江田島市介護保険(保険事業勘定)特別会計補正予算(第5号)
日程第4	議案第1号 平成24年度江田島市一般会計予算
日程第5	議案第2号 平成24年度江田島市国民健康保険特別会計予算
日程第6	議案第3号 平成24年度江田島市後期高齢者医療特別会計予算
日程第7	議案第4号 平成24年度江田島市介護保険(保険事業勘定)特別

		会計予算
日程第 8	議案第 5 号	平成 2 4 年度江田島市介護保険（介護サービス事業勘定）特別会計予算
日程第 9	議案第 6 号	平成 2 4 年度江田島市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
日程第 1 0	議案第 7 号	平成 2 4 年度江田島市港湾管理特別会計予算
日程第 1 1	議案第 8 号	平成 2 4 年度江田島市地域開発事業特別会計予算
日程第 1 2	議案第 9 号	平成 2 4 年度江田島市宿泊施設事業特別会計予算
日程第 1 3	議案第 1 0 号	平成 2 4 年度江田島市下水道事業会計予算
日程第 1 4	議案第 1 1 号	平成 2 4 年度江田島市交通船事業会計予算
日程第 1 5	議案第 1 2 号	平成 2 4 年度江田島市水道事業会計予算

開会（開議） 10時00分

- 議長（上田 正君） ただいまの出席議員は18名です。  
新家勇二議員から欠席の連絡が入っております。  
定足数に達しておりますので、ただいまから平成24年第1回江田島市議会定例会  
3日目を開会します。  
これから本日の会議を開きます。  
本日の議事日程は、あらかじめ御手元に配布したとおりであります。

日程第1 一般質問

- 議長（上田 正君） 日程第1、「一般質問」を行います。  
その前にお願いを申し上げます。  
類似した質問要旨は、議事進行の観点から質問者及び答弁者ともに重複をできるだけ避けていただき、簡潔にお願いしたいと思います。  
それでは、順次一般質問を行っていただきます。

6番 片平 司議員。

- 6番（片平 司君） おはようございます。  
昨日に続き、いよいよ3月定例会も本日が最終日ですが、きょう1日頑張っていきますので、ひとつよろしく願いいたします。  
まず、はじめにですね、改めて言うまでもないことですが、質問は、多くの市民の声をもとに、事前通告をしております。当然ながら、十分に真剣な検討をされておられることと確信をしております。市民の願いや、議場での権威を軽視することなく、丁寧な答弁をお願いをいたします。  
通告に基づいて質問を行います。  
市民の生命と生活を守る施策について、お伺いをいたします。  
市長が就任をして3年6か月が経過をし、最終年度になりましたが、市民の主張する安心・安全のまちづくりが実行され、市民の生命と生活が守られているのかどうかについて、お伺いをいたします。  
一つ、市長の政治姿勢、社会保障と税の一体改革について。  
今、野田内閣が進めようとしている社会保障と税の一体改革は、社会保障制度の大改悪を進めながら、消費税を2014年までに8%、2015年までに10%まで引き上げるとしております。  
また、年金支給額を引き下げや支給額年齢の引き上げ、医療費窓口負担増など、庶民増税・社会保障改悪で、最悪の国民犠牲です。  
消費税率3%から5%へのアップは、上向いていた景気を一気に冷え込ませました。  
今回の消費税10%で13兆円、それに年金の減額を合わせると16兆円の負担増になります。  
大企業には減税を行うという、極めて不公平きわまりないので、国民の期待を裏

切り続けています。

この一体改革は少子高齢化が進む江田島市において、市民の生命と生活が守れるのか、市長の御所見をお伺いをいたします。

二つ目、国民健康保険税についてお尋ねします。

今回、保険税が平均一人当たり7, 100円の値上がりになります。

支払い可能な保険税にしないと、滞納による短期証や資格証の人が増え、最悪は不納欠損額増につながってきます。単に足りないから上げるの数字合わせになってしまい、市民からの信頼は得られません。

江田島市の国民健康保険加入者所得状況も知らないでは怠慢です。問題解決に取り組むためにも、江田島市における国民健康保険加入者の実態をしっかりと把握しなければなりません。加入世帯者総数、短期証や資格証数、特に所得別世帯数は重要です。100万円未満、200万円未満、300万円未満、400万以上数をお示してください。

また、行政の可能な限りの努力をどのようにしておられるのか、具体的にお示してください。

三つ目、高齢者の生活実態調査について、お尋ねします。

12月議会での質問で、特養ホーム待機者問題、在宅介護問題等々質問をし、行政の認識が市民生活と大きくかけ離れていることがわかりました。

高齢者の生活実態調査を行い、実態に基づく対策を求めたことに対し、アンケートを実施するからとの答弁でした。期待をしておりましたが、介護予防のみで、非常に残念でなりません。介護予防のアンケートも必要だとは思いますが、このアンケートで高齢者の生活実態が十分に把握できたのか疑問です。このたびのアンケートで、高齢者の生活実態をどのように把握でき、どのような対策がとられるのかお示ししてください。

以上、3点よろしくお願いをいたします。

○議長（上田 正君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 改めまして、おはようございます。

定例会3日目、大変御苦労さまでございます。

また、市民の皆さんには、朝早くから傍聴にお越しいただきまして、お礼を申し上げます。

それでは、お答えいたします。

まず、社会保障と税の一体改革についての御質問ですが、この改革については、現在、国の方で議論を行っており、その動向を注視しているところでございます。

この問題は国の施策に関わることでありますけれども、改革の中身がいわゆる社会保障の機能強化とともに、国、地方を通じた安定的な社会保障財源を確保するものであることから、社会保障制度を幅広く担っています地方の意見を十分反映していただきたいというように思っております。

次に、国民健康保険税についての御質問にお答えいたします。

平成23年度に江田島市国民健康保険税を賦課した世帯総数は5, 325世帯です。うち短期証世帯が216世帯、資格証世帯は61世帯となっております。

国保加入世帯の所得別世帯数ですが、所得額が100万未満の世帯は2, 454世

帯、100万以上200万未満の世帯は1,502世帯、200万以上300万未満の世帯は682世帯、300万円以上の世帯は687世帯となっております。

施策については、昨日の野崎議員の質問にもお答えいたしました。税の収納率の向上の取り組みはもとより、「ジェネリック医薬品差額通知」を送付するなど、歳出削減にも努力していきたいと考えております。

次に、高齢者の生活実態調査についての御質問でございますが、このたびのアンケートは、「介護予防のためのアンケート調査」ということで、内容については厚生労働省が作成した調査項目をベースに、運動機能や生活力などの心身機能の低下の有無を判断することを目的として1年で2町ずつ、2年間で実施したものです。

対象者は、介護を受けていない第1号被保険者と、在宅サービスを利用している方から抽出した被保険者を対象としています。

アンケート調査結果の一部ですが、現在の健康状態は一般高齢者の約25%の方がよくないと回答しております。

現在治療中の病気は、要介護要支援高齢者では、筋骨格の、要する筋肉の筋に骨ですね。骨格の病気や認知症の割合が高いというようになっております。

この1年間で転んだことの有無では、一般高齢者の27%の方が転んだことがあると回答し、47%の方が転倒に対する不安を持っているなどの結果となっております。

対策としては、健康づくり施策の推進や各種検診の受診勧奨、認知症予防教室、認知症高齢者に対する地域の理解と協力の仕組みづくりや権利擁護、それから、家族に対するケアの充実、運動機能向上を目的とした教室の開催などが必要と考えています。

また、アンケート調査の結果で、現在の状況が続くと、介護が必要となる恐れがある人については、地域包括支援センターで実施している二次予防事業の介護予防教室等への参加を案内しております。

今後は、高齢者人口も増加し、対象者がふえると思われますので、介護予防事業を充実していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） それでは一つずつ順番にやっていきたいと思っておりますので、ひとつよろしく願いいたします。

一つ目の市長の政治姿勢についてです。

国の動向もいろいろ見きわめながら、まだ不確定な要素もいろいろあるわけなんです。私はですね、ここで申し上げたいのは、やはりこの今ですね、税と社会保障の一体改革が、消費税の増税を10%にする。8%から10%にする。これは橋本内閣のときにですね、3%から5%にしたときに、上向いておった景気が、ガタンと落ち込んでですね、それがずっと今まで続いとるという状況なんですね。

今回はですね、それをなお8%から10%、おまけに、年金の支給額を下げてくださいね、同時に支給年齢を上げると。将来的にはですね、16兆円とか20兆円の国民からですね、お金を吸い取るということなんですよ。

それでですね、きのうもテレビで、岡田副総理がですね、消費税の値上げ分1%、

2. 7兆円らしいんですけどね、これを、社会保障のようにまわすんじゃと。とうとうとしゃべっとるわけなんですけど、ところがこれもですね、非常にごまかしがありましてですね。わが党のこの新聞の赤旗、志位委員長が国会での質問にも代表質問でもされておりましたがですね、この2.7兆円はですね、まず、子ども手当が4,400億円の減額。それから、介護利用料が800億円、ほいで高齢者の病院の負担金が1,900億円、これで7,000億円。ほいで、年金の支給額が2兆円。ちょうど2兆7,000億円がですね、ここでちゃらなる。パーなんですよ。ひとつも、1%をですね、社会保障にまわすいうてもね、まわってないんですよ実態は。

これがですね、この社会保障と税の一体改革のですね、非常に許しがたい、その消費税は上げるけど社会保障の方は限りなく下げられると。このままいったらですね、江田島市民にとっても大変な思うんですがね、市長どう思われますかね。

○議長（上田 正君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 先ほど言いましたように、これは国の所管の問題ですので、今予断許さない国会を見てますと、予断を許さない状況になると思いますけれども、ただ言えるのは、今後ますます日本全体の高齢化率が上がりまして、2050年には、65歳以上が38%、約10人のうち4人が65歳以上なるというような高齢化社会を迎えようとしております。

いつも言われるように、毎年社会福祉関係の国全体の予算では毎年1兆円ずつこれがふえていくと。現在でも、約109兆、こういった社会福祉関係の社会保障関係の費用が108兆円毎年今必要になっております。これが、2025年度は145兆円必要なるということ、単純にとにかく節約しても1兆円ずつ毎年ふえるということで、もう国が、今の例えば保険料とか税をふやさない限りには、現在の社会保障制度を維持できないと。これは、みんなが認めとることなんで、そうすると今のままですと、完全に、例えば年金を少なくする、また、現役世代の方には、負担をふやしてもらおうというしかない。その中で物事が折り合うしかないというようなことなんで、今回のこれ私がちょっと民主党の出しとる資料なんですけど、この資料を見まして5%から10%にするのに、民主党は今のところ、増税した分については消費税をふやした分については、全部社会保障に増しますと。従来の5%の部分では、いわゆる基礎年金ですね、国民年金の分ですよね。これが法律では、今まで国の持ち出しが3分の1じゃったのが、2分の1にしますと、国の持ち出しを2分の1に、国民年金の分を2分の1にしますというんですが、実はそれ財源が、法律ではそういうようになってるんですけど、実は財源が決まってないわけです。どこからそれを持ってくるかということ。そういう、いわゆる基礎年金、それから老人医療、この介護、今までの5%中で、この三つの分野へこの5%を使用しとったわけなんですけど、今度10%にしたときには、この年金・医療それから介護、それプラスいわゆる少子化対策を加えて、増税をした分については、この4本柱に5%増額した分を使いましょうというような形になっております。

これは、これだけ大きく国会で議論をしておりますので、そう目的が増税した分がですね、いわゆる役人が焼け太りとかいうようなよく言われますけど、そういったものとか、役所の機構を残すために使われるというのはわかりませんが、建前ではそうい

うことには使いませんと。

とにかく年金とか社会保障に使いますということになって、国の取り分として、今まで4%が5%の消費税のうち、国が4%、地方が1%、とつといたんで、今度は国が7.8%で、地方が2.2%ということになりますけれども、国の取り分のうち、約1.5%が、地方へ地方交付税として返ってきます。今の地方交付税で返ってきてます。トータルで言いますと、現在の5%の消費税のときには5%のうち、地方交付税と地方消費税でですね、5%のうち2.18%が実は地方へ返っております。これが10%になりますと、地方へ返ってくるのがですね、10%のうち3.72%返ってきます。今と10%の差額がですね、1.54%、税額で言いますと、およそ4兆円ほど返ってきます。4兆円ほどふえるわけです。

ですから、その4兆円地方へ返ってくる10%になったときに、4兆円交付税できますから、その4兆円をですね、各自治体が、それぞれ幾らになるかわかりませんが、その部分をですね、どういようにどのようを使うかということがですね、これからの今回の消費税10%した分の1番の焦点じゃないかというように私は思います。

ただ、全体を見ますとやむを得ないじゃないかというように思います。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 市長はあまりこの問題ですっとやってもええんですがね、まだあと二つ残っておりますので、この問題はね、最後にですね、私は要はですよ、財政の立て直しは必要なんですよ。

だけど、財源の捻出はね、やっぱりこの例えば政党助成金の320億円をやめるとか、年間5兆円の軍事費を削減するとか、同じく年間5兆円のある不要不急の公共事業を見直すとか、またはですね、大企業が貯めに貯め込んだ内部留保約260兆円ありますよ。これをですね、やっぱり適正使わして、そういうところからですね、雇用の拡大とか賃金の引き上げとかやることによって、税収をふやすというふうな方向せんとですね、今のままでね、このまま消費税をとうとうと述べておりましたけどですね、消費税が5%も上がったんじゃないですかね、年金のしわ寄せが下がったんじゃないがね、到底ですね、収入がふえんですよ。ほいで過去の例もですね、消費税が上がったらね、2%上がったから2%ふえるわけじゃないんですよ。消費が落ち込むから入らんのです。そのような経過がありますから、今回の消費税を値上げしたらね、日本の経済はもう底が抜けてしまう。その懸念が非常に強いわけなんです。

そこでですね、この問題の最後にですね、国や県の施策を待つだけではなく、市民の生命と生活を守らんやいけんの市長は。そういう地方の必死な姿も見して、国に対して、消費税の引き下げや社会保障の大改悪を行わない。そういう大企業には応分の税金を負担をさしてもらおう。さらに、国の財政のむだ遣いを改めて抜本的に組み直すことを求めてですね、行くべきだと思うんですよ。

そこで、そういうことについて一言市長は、一言でいいですから、長々と言いよったら次がないですから、お願いします。

○議長（上田 正君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 簡に申し上げますと、これは国の施策ですから、あまり我々

がどうこう言うことはできないですけど、ただ一つ、実は全国で地方6団体があります。県とそれから市と町村がありますが、この6団体がですね、この消費税を引き上げるときに、引き上げた部分の配分についてですね、当初の政府の方針の数字じゃ納得できないということで、全国の市長会もですね、その数字じゃ我々は納得できないから、ということで、民主党とずっと協議を重ねてですね、最終的にこの先ほど私が言いましたように、地方の取り分が10%のうち3.72%ということで、全国市長会もですね、これなら、やむを得んじやろうと。

このまま制度そのものが、非常に世界でも誇るそういう国民年金、国民保険とかいう、そういった制度をですね、崩すことになりかねん。そのことを思うと、この割合で国と地方の取り分は、この割合でしようがないということで、全国市長会、地方6団体も、これで納得して、政府との間で折り合った数字ですので、先ほどから言います交付税でかえってくる分について、その部分で、それぞれの地方が、知恵を働かして、そういう安心して暮らせるための政策を進めるしかないというように思います。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 次の質問に移ります。

国民健康保険税についてなんですが、今回、所得別の世帯数を出していただいたんですが、所得別の世帯状況とですね、93%の収納率が約93%なんですよね。

これを見て、どう感じられます。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） どう感じるかと言いますと、別に93%というのは、その所得層がわかったからどうのこうのいう問題ではないと思っております。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平 司議員。

○6番（片平 司君） ちょっと質問がね、悪かったのかもわからんが、要は、これを見ると、100万以下で大体2,400世帯、200万で1,500世帯。いってみれば、200万、300万未満の世帯数がほとんどなんですよねこれ、国保世帯は。それの中でですね、93%の収納率というのは私はよう頑張るとるんじゃないかと思うんですよ。一生懸命払っとるんじゃないか思うんで、そのへんをどう思うかいうて聞いた。

いや何も感じませんじゃ私もちょっと質問した意味がないんじやが、頑張ってやっとなのかじゃね、非常によろ払うとるのかというふうなことをね、聞いたかったんじやが、どうもあなたとはいつもずれるけえね。それはもういいんです。

市民からは、年金が少なくて生活が大変だから働く、そうすると収入がふえる、そうすると保険高くなるんですよ。今回の値上げはですね。本当に支払いができる保険税としてですね、提示されとるんかどうかちょっと答えてください。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 支払いができる保険料かどうかというのはわかりませんが、これを支払ってもらわなくては困るという金額をお示ししたわけでございます。ですから、納税をしてもらわなくては困るというものでございます。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番(片平 司君) それでね、それはあんたらはそういうようになって、しょうがない面もあるんじゃないけど、要は、今でもですね、93%は非常に頑張ってくれとるんですよ。けど7%の人は払えないんです。

ほいじゃがね、これをね、今回ですね、1人7,000円上がるんですが、大体平均4人所帯ならですね、二万七、八千円上がるような資料がありましたけど、となるとですね、さらに生活が厳しくなると思うんじゃないがね、あなたどう思いますこれ。

○議長(上田 正君) 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長(徳永信幸君) 生活が厳しくなるというのは、当然保険料が上がれば厳しくなると思いますけれども、それで皆賄っているわけですから、よその保険の方もですね。ですから、頑張ってもらわないかと思っております。

○議長(上田 正君) 6番 片平議員。

○6番(片平 司君) いつもこのとおり行くとずっと汽車の線路みたいなもんでね。次にちょっと進みますけど、それで、問題は、過去5年間の不納欠損額、ちょっと答えてください。

○議長(上田 正君) 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長(徳永信幸君) 5年間はありませんけれども3年間で、平成20年度がですね、1,072万円、平成21年度は413万2,000円、平成22年度が404万2,000円。

以上です。

○議長(上田 正君) 6番 片平議員。

○6番(片平 司君) とまあ3年間で約2,000万。大体このような数字じゃないかと思うんですよ。平均の収納率が93%はだいたい推移しとるみたいですから。

そうするとですね、この不納欠損は、払えない、いうてみれば保険税のあらわれですよね。

要は、不納欠損額について、あなたどう考えておりますか。

○議長(上田 正君) 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長(徳永信幸君) 中には払えない人もおるし、払えるのに払わなかったという人もおると思います。

ですから、不納欠損が出ることで自分が非常に残念なことだと思っております。

○議長(上田 正君) 6番 片平議員。

○6番(片平 司君) それで、このことしは保険税が上がって、滞納者がふえると思うのよ。ほいで不納欠損の額もふえるんじゃないかと思うんですが、来年、再来年、将来的にね、この値上げによる影響はどのように計画しとるのかちょっと答えてください。

○議長(上田 正君) 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長(徳永信幸君) 値上げによる影響というのは別に考えたことはございませんけれども、滞納はふえてくる予定になつてきますけれども、それは徴収員の方に頑張ってもらっていて、税というものは、すべてをいただくというのがシステムですから、これを公平にやろうと思えばですね、やっぱりすべていただくというのが前提です。いた

だかない人、納めない人、悪質滞納者にしてはですね、公平の観点から、今の資格証というのは10割出してもらって医者へ行ってもらうというような制度ができとるわけでございます。

ですから、税はとにかく全てをいただくというのが前提でございます。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） どっちにしてもですね、今でも払えてないわけですから、7%を残とるわけですよ、全体の7%はね。収納率は93%なんですから。

これが、来年、再来年とまだまだ上がると思うんですが、上がるとですね、さっきの消費税じゃないけどね、ふえるというふうにはなかなかならんんじゃないか思うんですよ。

ほしたらまた値上げにならないといけないというふうなことの悪循環になるんじゃないかと思うんで、そのへんはどういうふうに考えてますか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 滞納がふえれば次の年はまたそれ以上に保険税は上げるといふ悪循環になるのは当然だろう思うんですけども、それがならないために今の滞納額も徴収を頑張ってくださいと、それで差押えできる方には、すべて差押えするというのを、当然税の公平の観点からやっていかなくちゃいけないと思っております。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 次にいきます。

不毛の議論になります。

あのですね、この資産割合というのがありますよね。国保税を取るときに。所得割と資産割と。この資産割合の見直しを求める声がですね、非常に高いんですが、検討してもらいたいと思うんですが、どうです。

要は、そこらに遊んだ土地があった自分の。ほいでも、これひとつも金を稼がないのに資産があるけえいうんで加算されるんじやが、これどう考えてもね、納得できんのんじやけど、どうなんですか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 資産割合の件につきましてはですね、江田島市としてもですね、将来的にはなくす方向で考えております。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 遠い将来ではなしに近い将来に是非よろしく願います。

次に入ります。

健康診断のいわゆる目標がね、去年は50%、達成は28%だったんですが、この反省点は何かありますか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） いつも反省はしておるわけでございますけども、こ

の特定健診の受診率を65%が最終目標になっているわけですが、この65%自体がですね、江田島市じゃなしに全国的にですね、多分無理じゃないかと思われる%になっとなります。

1番の原因はですね、40歳から74歳の方が対象になるわけですが、医者にもうかかっている方が、かなりいるわけなんです。その方いうには、もう健診に来てくださいと言われても病気にかかるとるわけですから、もう行く必要はないと。ここらが1番ネックになっとなるんじゃないかと思っております。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） その65%が無理じゃいうんじゃないら、これをですね変えてくれとかいうふうなことをしてやね、そもそもだいたい50%ができんのに、28%がええやっとなのに、65なんて到底できる数字じゃないんですが、ここへ今年も書いとるけえね。やる気でおるんじゃと思うんだけどね。これを今の答弁と重なりますけどね、ほいじゃ50%ができんのに65%はどうやってやろう思うとるんね。ちょっと参考までにちょっと答えてください。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） それはあくまでも目標は65%いうのですから、それに向かって頑張るしかないと思っております。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） これをやるのに、はがきとかね、電話でいうて言いよるんですがね、やっぱりね、1番は、来ない人の家へ1軒1軒回って、訪問活動しかないんじゃないかと思うんですが、それはする気はないんですか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） とりあえずは、来られなかった方に対しては、個別に電話したり、はがきを通知したりしているわけですが、それでも来てくれない場合は、最終的には、そういうふうな訪問するしかないのかなというのは考えております。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） たしか来年度も緊急雇用対策費用が予算書に載ったと思うんですが、臨時の人でも雇ってですね、来ない家へですね、1軒1軒回らせて、1%でも2%でも数字を上げる方策をね、やっぱり考えらんじゃ、これは電話やはがきじゃもうだめないうのはわかっとなるんじゃけえ、1軒1軒回っていくしかないんですよ。

多分、緊急雇用対策事業が何か予算書見たらあったと思うんですが、総務課長あったですね。どうなんですか、これは。

○議長（上田 正君） 浜村総務課長。

○総務課長（浜村晴司君） 緊急雇用いうものは予算を組んでおりますけれども、この緊急雇用の使途が決められてまして、はっきりは記憶してないんですけども、限られた人しか使用できないようになってると思います。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） それは決められとるんなら、それはダメなんならダメで、それは福祉保健部の方で考えりゃええことなんです、是非それをやってください。そうじゃないとね、これなかなかいかんですよ。電話とはがきじゃ今までやっても28%なんじゃけえ。

次にいきます。

ジェネリック医薬品の取り組みについてなんです、支払額の差の大きい人から400人、知らせるとの取り組みですが、知らせるだけで効果が出るのか疑問に思うのですが、どうなんですか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 呉が先に導入されたわけですが、呉の方式にしたがいましたらね、一応通知をしたら、それなりの効果ですか、いうのがあがってきたということで、呉の方の方式のことで今効果をあげてみますとですね、3年で2,200万程度ぐらいの効果が見込めるんじゃないかと思っております。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） ということは3年間で大体2,200万を見込んどることですね。

呉はね、この成果を上げたのは訪問なんです。毎月大体200人から300人、利用拡大に大きな成果を上げておるわけなんです、江田島市もね、やっぱり3年間で2,200万円を上げよう思うたらですね、そういうのをせにゃいけんと思うんですが、訪問活動をせんとですね、さっきの特定健診と一緒に、数字は上がらんのかなんじやないかと思うんですが、いかがですか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 方法につきましてはですね、また呉市の方に相談をしてですね、どういう方法でやられたのかいうのを確認しましてですね、また検討したいと思っております。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 是非まあよろしくお願いします。

ことは国保税のね、値上げがいつまでも続くかどうかの問題なんですから。

次に入ります。

社会福祉法第2条第3項の9にですね、無料低額診療というのがあると思うんですが、説明してくれますか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） あの申しわけございませんが、説明ができませんけど。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 後で資料いうわけにはいかんのでね、これね、生活の困難者が、経済的な理由で、必要な医療を受ける機会を制限されることのないよう、無料ま

たは低額な料金で病院にかかれる制度なんです。

説明ができませんのじゃけえ、どこへ何があるかもわからんと思うんで、ついでに言います。この近くでは、呉の済生会病院、坂の済生会病院、広島市のみゆき通りにある掖済会診療所があります。

ほいでですね、質問なんです、国保の資格を持たず、完全無保険の人、資格はあっても保険料が払えずに無保険になった人、保険証があっても3割負担が困難で治療ができずに病気を悪化させてしまう人が利用できるんです、さっき言ったように。

今後利用可能な制度をですね、個別対応で取り組みをしていくべきだと思うんですが、江田島市の対応はどうですか。考えますか。

答えてみてください。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 資格証を持つとる方というのはですね、悪質滞納者なんです。そういう方に対してから、今の無料で見るというのはちょっと考えられないんですけど。払おう思っても払えない人に対してはうちは資格証は出していません。

ですから、今のような制度を今考えることが考えられませんかということです。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） どうもね、認識がね、共有してないけえ話がかみ合わんのだと思うんですよ。

できればね、きょう帰ってインターネット見りや出ますし、調べてみてください。

無料低額診療とはどういうふうなもんかいうのをですね、見んことには、話しよう思っても、今そういうふうな一般質問の項目に最初ポンとあげとれば、あんたらも調べてきたんかもわからんですけどね。だけど、何が飛び出すか分からんのが一般質問ですからね、もうちょっと調べとってもらいたかったんですよ。でないとですね、前に行かんのです話が。

それで、やっぱりそういうふうな、国保をもし使わなくなったとしてもですね、お金がないけえ、病院にかかれん人がおったら困るいうんで、こういう無料低額診療いうのがあるんですよ。これ全国にあるんですよ、ようけ。そういうところを紹介することもできるんですよ。それを聞いとる。どうなんです、そのへんは。

私は知らんですよじゃすまんじゃないですか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 今のような制度をちょっと勉強させてください。

今初めて聞きましたので、はい。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 勉強してまた充分江田島市もどういうふうなね、できるかできんかいうのをですね、やってみてください。

ほいじゃ、次にはいきます。

今民主党の公約違反が大きな批判にさらされとるわけなんですよ。

国保についても国の調整交付金の引き上げ、保険税の減免措置への国庫負担の増など、9,000億円の予算措置を行い、国民の負担軽減を図ると国会でいうとったんで

すよ民主党は。ところが、公約を次々とホゴにしとる民主党いう政権は。この公約が実行されておれば、国保の値上げをせんでもすんだわけなんですよ。

市長、先ほどと同じようになりますかどうですか、このことについては。

○議長（上田 正君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 民主党の公約が守られてないと、いわゆるマニフェストが守られてないというのは、大部分の国民がですね、同じ共通認識じゃろうと思います。

非常に自民党の時代と比べてですね、新鮮なマニフェストを公約を掲げてですね、みんなが民主党政権になると、これは、非常にすばらしい日本になるんじゃないかということで、結果的に政権が変わったわけなんですけども、よくよく見ますとですね、もう全然、大事な骨になるような、公約の骨になるような大事なことがですね、ほとんどの場合が守られてないというようなことで、議員が言われるとおり、非常に現場いうですか、国民は混乱してですね、政治への不信というのは、ますます高まるとなるような気がして言われるとおりだと思います。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） そのとおりじゃと思うんですが、市長、国に対してですね、江田島市として、国保の負担率の引き上げのためのですね、要請書を提出をすべきと思うんですが、ひとつどうですか、その辺は。

○議長（上田 正君） 田中市長。

○市長（田中達美君） それはなるべく少なくしてくださいよという要望はできると思いますけれども、一般的には議会の、例えば議会が決議をするとか、市の方が、市の場合にはあまり単独で行動することはありません。

というのは、それぞれの市がですね、単独ですると全然国が例えば相手にしないということで、最低限県の市長会とか中国地区の市長会、それから全国の市長会というような組織でしないとですね、地方の役所というのは、ほとんどの場合が単独市で行いますと、力になる、影響を及ぼすことができませんので、そういうことになりますと、最低限県単位で、同じ認識で物事をするということになると思います。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） この問題の最後になりますけれども、高い国民健康保険税について、払える保険税にすべきと再三質問してきました。根本的には、国の負担を上げなければ解決にはなりません。しかし、ある日突然に少子高齢化になったわけではないし、国民健康保険の危機が突然に起こったわけでもありません。先を見据えた日々の対策や努力の欠如は言うまでもありません。国や県の施策待ちではなく、市民のために必要なことは小さなことでも一生懸命取り組み、積み上げていく姿勢が必要です。一般会計からの繰入れを含め、職員の知恵を出し合って取り組んでもらいたい。要望です。

続いて、最後の質問に入ります。

高齢者の実態調査についてですが、アンケートの対象者、この前アンケートが来ましたよね、対象者は何人で回収率は何%でしたか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） アンケートの対象が、まずこの23年度は、能美町

と江田島町です。

回収率につきましては82.4%、回収したのが2,180人、対象者が2,646です。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） この介護予防アンケートなんですが、運動機能、生活力、心身機能の低下の有無を判断することが目的で行われたチェック機能方式でしたよね。

書く項目はない、いうところがなかったです。

これ私がね、12月議会の質問は高齢者の生活実態調査をしてくれ言うたら、あなたはね、アンケートが行くけえ待ってとってくれえというて待ちよったら来たんが、この介護予防のアンケートやったんですよ。高齢者の生活実態調査じゃないんじやがね、どうなんです。違うとったんですよけどね。答弁と。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 高齢者の実態、生活実態調査についての質問でしたけれども、ちょうどたまたまうちがですね、この介護予防のためのアンケート調査がですね、この一部に、今の高齢者の生活実態の一部になると思ひましてですね、その実態調査は、このアンケートがありますというふうに答えたわけでございます。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） これは介護予防のアンケートの中身は、事前に確認をしとったんですか。市の方は。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 当然出す前にですね、一応厚労省からひな型がありますので、そこからうちが該当しそうな分をチェックして、出したわけでございます。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） ほいでね、質問通告書にも書いてますけどね、介護予防のアンケートもすないうんじゃないんよ。必要なんです。必要なんです。私が12月議会で言うたのは、高齢者の実態を把握できとるんか言うたら、アンケート用紙が行くけえ、大丈夫じゃけえ待ってとってくれえいうて、来るじゃろう思うて来たら介護予防じゃった。ほいじゃ高齢者の実態調査はどうやってやるんかいうのを、どうするんですこれ、せんのです。あれ出てなかったですよ。あのアンケートでは、高齢者の介護予防の調査であって、実態調査の項目は入ってなかったですよ。どうなんです、そのへんは。

私はね、そこで、あの介護予防のアンケートに高齢者の実態調査も一緒に含まれるんじやなかったんですか。何でせんかったんです。

答えてください。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 高齢者の実態調査をするわけじゃなくて、今の介護予防のためのアンケート調査が、たまたま今の質問と、これが一致したもんでですね、その一部に当たるということで、回答させてもらったわけでございます。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） ですから、せっかくね、印刷物を刷るお金、郵送するお金、回収するお金を何百万か使うとるわけなんですよ。何十万か何百万かわかりませんけど。

そうしたら、せっかくするんじやから、その項目に何項目か、例えば、通院回数のあるんですよあれの中に。これなんですけどね。通院回数があるんですよ。そうしたら、例えばその中に、島外の病院に行つとるかとかいうのを入れときゃあね、ああほいじやあ大きな病院へ行きよるいうことは大きな病気をしよるんじやのとか分かるじゃないですか。

ほいで、介護する人を、家の人介護しよつたら、経済的な家族の負担とかいろいろあるんじゃないです。そんなんが分かるじゃないんですか。

1項目か2項目か三つぐらい入れりゃ。何でせんかったんかいうのを聞きよるんですよ。それを。

いつも言うじゃないですかあなたらは、費用対効果じゃいうて、金を使うな使うないうて、ほいじゃけえ、そういうものを言いよるんです。何でせんかったんかいうてそれを。一緒にやつたら、済んどるわけでしょう。せっかくやるんじやけえ。

どういふことなんですか。答えてください。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） このアンケート調査いうのはですね、もう既に議員さんが質問をする前にですね、もう実施していたわけなんですよ。

それにつけ加えりゃええじゃないかと言われても、もう様式も決まっていたので、できなかったというものでございます。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 1ページに付け加えるだけができんことはありやせんじゃないね。別に1ペーパーこれA4ぐらいで刷って一緒に入れりゃあすむこと。これの中によね、これはこれでやって、これを1ページ入れとけばすむことじゃないですか。そういう時間的な余裕はないことはないよ、それは。

まあええわ、時間がないんで、次にいきます。

ほいでね、介護予防、介護予防と言いますが、前からも言いよるんですけど、公民館活動とかいきいきサロン、あるじゃないですか。そういうようなことを支援することで、充分介護予防できると思うんですが、どうですか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） いろいろな支援の仕方があると思ってます。

当然いきいきサロンについても、今の公民館活動についても、それは出てくることだけでもいいと思っております。

ですから、いろんな面からでも支援が可能であると思っております。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） ですからね、お金をかけずに、やろうと思えばね、いろんな方法があるんですよ。考えていきやあね。

多分これ高齢者の方は、使用料は公民館タダだと思うんですけどね。そのようなものを十分利用してですね、何も大げさにですね、ここへ集まってやね、予防保全の運動をすとかいうことをせんでもですね、日常的に出歩くことだけでもですね、大きな成果になるんじゃないかと思います。

次にいきます。

12月議会です、要介護2で非課税世帯の島内施設、特養ホーム、老健、認知症対応施設、療養病院、小規模多機能の利用費用の質問をしましたが、その日は分からんけえ後で報告しますということでしたけど、きたのが、平均的費用をインターネットで引き出して提示するような報告でありましたよ。何回かでやっと正確な施設の利用費用を提示されましたけどですね、市内でのですね、施設利用費用などをね、知らない状況はね、職務怠慢だと思うんですがどうです。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） どうもすみませんでした。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 今ですね、親の介護してる子どもが病気で先に死亡する。そのあと親も死亡する。何日も経って発見される。今テレビで何件か報道されております。孤立死が続いております。介護問題は深刻な状況です。

江田島市においても在宅介護がほとんどの介護者が何らかの病気がありですね、その上での老老介護、他人事じゃないんです。

施設利用を望む市民の声をどうするのか、ちょっと答弁を、簡単に言うてください。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） ですから、今の老老介護というのは大変なことだと思っております。

行ったら死んどったということがないようにですね、今の見守りの方からも、民生委員さんにおいても、老人クラブさんにおいてもですね、今のような見守り活動において、今のひとり暮らしの老人の家とかですね、いうのを訪問してもらってですね、そういうのがないように、心掛けんやいけないと思っております。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 誰でも年をとって、人の支えが必要になるんですよ。

小規模多機能施設よりも、少ない費用の特養ホームを市民は求めております。

補助金を出してですね、今ある3施設にね、ベットの増床の検討をしてみてもどうかと思うんですが、これも簡単に。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 増床をお願いするのは、お願いできてもですね、なかなかできないというのが、議員さんも御承知のように、わかっと思ってるんですけども、県内ではもう満床ということで、建築、増築というのが不可能なような状況でございます。

以上です。

○議長（上田 正君） 6番 片平議員。

○6番（片平 司君） 最後にですね、国や県の方針を重視するのではなくですね、江田島市の状況にあったね、施設を求めて質問を終わります。

○議長（上田 正君） 以上で、6番 片平議員の一般質問を終わります。

これで、一般質問を終わります。

○議長（上田 正君） 暫時休憩とします。

11時15分まで休憩をします。

（休憩 11時03分）

（再開 11時17分）

○議長（上田 正君） 休憩を解いて、会議を再開します。

## 日程第2 議案第38号

○議長（上田 正君） 日程第2、議案第38号「平成23年度江田島市一般会計補正予算（第6号）」を、議題とします。

この際、議案の朗読は省略いたします。

直ちに、提出者から提案理由の説明を求めます。

田中市長。

○市長（田中達美君） ただいま上程されました議案第38号「平成23年度江田島市一般会計補正予算（第6号）」でございます。

平成23年度江田島市の一般会計補正予算（第6号）は、次に定めるところによる。繰越明許費の補正。

第1条 繰越明許費の追加は、「第1表 繰越明許費補正」による。

内容につきましては、福祉保健部長をして説明申し上げます。

よろしく願いいたします。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 議案第38号の説明をします。

このたびの補正は、いずれの経費も、法改正に伴う既存のシステムの改修に係る経費であり、平成24年3月定例会で補正予算として計上し、可決されたものでございます。

補正予算提出時においては、当該システム改修は、年度内に事業完了の予定であったが、国のシステム改修の具体的な内容提示の遅れから、システム改修業者における改修作業が年度内に完了することが見込まれないこととなったために、経費の一部を翌年度に繰り越すものでございます。

明細につきましては、2ページをお願いします。

第1表 繰越明許費補正。

追加としまして、3款民生費1項社会福祉費。事業名が障害者自立支援事業。

法改正に伴う障害者自立支援システム改修委託で70万9,000円を繰り越すものでございます。

3月補正時は141万8,000円ございました。この内70万9,000円を繰

り越すというものでございます。

その下、介護保険（保険事業勘定）特別会計繰出金。その下も同じことを書いていますけど、これすいません、消してもらえますか。

この内容がですね、介護報酬等改定に伴うシステム改修事業ということでございます。この金額が469万8,000円を繰り越すと。

3月補正時にはですね、518万1,000円あったものをですね、そのうち469万8,000円を繰り越すというものでございます。

補正時にはですね、ここの金額が、一般会計からの繰出金が162万8,000円になっと思ったと思うんです。この内訳はですね、6つの事業ございまして、まず、1が地域支援事業介護予防現年度分がマイナスの27万9,000円、地域支援事業包括的支援事業現年度分というのが12万7,000円。介護報酬等改定に伴うシステム改修事業が518万1,000円、職員給与費繰出金がマイナスの205万円。介護給付費現年度分が25万円。介護認定費事務費繰出しがマイナスの161万6,000円。差し引きしまして、162万8,000円の補正を3月に当初にしております。

以上で説明を終わります。

○議長（上田 正君） これをもって提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

17番 山木議員。

○17番（山木信勝君） 年度内にできなかつたということでありますが、4月1日から、これをすぐやらにゃいけんということで、この間の補正組んだんじゃろう思うんですがね。支障をきたすんじゃないですか4月から。すぐやらにゃいけんのじゃないですかこれを。その1点と。

この年度内に23年度で半分か、141万8,000の半分70万9,000円が繰り越すわけですが、年度内にこれ何をこれだけ70万ぐらいできるということよね半分ぐらい。

それと、介護保険の方も100万ぐらいはやるいうんですが、これ何をやるんですか、意味がようわからんよこれ。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） パッケージというのがございましてですね、そのパッケージが3回に分かれて、障害者の方は3回に分かれてあるということで、2回のパッケージが年度内に終わるんですけどどれも、あと一つが、障害者の方は6月ぐらいかかるということでございます。

ほいで、介護保険の方も、同じようにパッケージございまして、ほとんどが7月ぐらいにずれ込むということでございます。

今の支障はないかということでございますが、支障は別にあるというのは聞いておりません。

以上です。

○議長（上田 正君） 17番 山木議員。

○17番（山木信勝君） 支障がないということは、じゃもう6月、7月ごろから会計ができとれば、どういいますかね、税金をもらえるようなシステムが7月ごろで間に合うということですか。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） あの障害の方も6月ぐらいできると、ほいで介護の方は7月ぐらいできるといふうに聞いております。

○議長（上田 正君） 4番 山本秀男議員。

○4番（山本秀男君） ちょっと確認の意味でお聞きしたいんですが、特別会計への繰出金を繰り越しいうことですが、これは、一般会計の方で追加補正して、それから特別会計の方で繰り越しをするんじゃないですか。

こういう繰出金自体を繰り越すことはできるんですか。

ちょっと確認をお願いします。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 一般会計から介護の方への繰出金が3月補正あったわけですが、その一部を繰出金として繰り越しというものでございます。

○議長（上田 正君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、直ちに採決を行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

起立多数であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

### 日程第3 議案第39号

○議長（上田 正君） 日程第3、議案第39号「平成23年度江田島市介護保険（保険勘定事業）特別会計補正予算（第5号）」を、議題とします。

この際、議案の朗読は省略いたします。

直ちに、提出者から提案理由の説明を求めます。

田中市長。

○市長（田中達美君） ただいま上程されました議案第39号「平成23年度江田島市介護保険（保険事業勘定）特別会計補正予算（第5号）」でございます。

平成23年度江田島市の介護保険（保険事業勘定）特別会計補正予算（第5号）は、

次に定めるところによる。

繰越明許費。

第1条 地方自治法第213条第1項の規定により、翌年度に繰り越して使用することができる経費は、「第1表 繰越明許費」による。

内容につきましては、福祉保健部長をして説明申し上げます。

よろしく申し上げます。

○議長（上田 正君） 徳永福祉保健部長。

○福祉保健部長（徳永信幸君） 議案第39号の説明をします。

補正の理由は、先ほどの一般会計の繰越明許と同じでございます。

明細について4ページをお願いします。

第1表 繰越明許費。

1款総務費1項総務管理費。事業名、介護保険一般事業で、介護報酬等改定に伴うシステム改修委託で703万4,000円を繰り越すものでございます。

3月補正当時は800万円、800万円のうち703万4,000円を繰り越すというものでございます。

以上で説明を終わります。

○議長（上田 正君） これをもって提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、直ちに採決を行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

起立多数であります。

よって、本案は、原案のとおり可決されました。

#### 日程第4 議案第1号～日程第15 議案第12号

○議長（上田 正君） 日程第4、議案第1号「平成24年度江田島市一般会計予算」から日程第15号、議案第12号「平成24年度江田島市水道事業会計予算」までの12議案を一括議題といたします。

本12議案について、山根啓志予算審査特別委員長の報告を求めます。

山根予算審査特別委員長。

○予算審査特別委員長（山根啓志君） では報告いたします。

予算審査特別委員会審査報告書

平成24年3月16日

江田島市議会議長上田 正様

江田島市議会予算審査特別委員会委員長 山根啓志

本委員会は、平成24年第1回江田島市議会定例会本会議（1日目）において付託された次の議案について、各常任委員会所管ごとの3分科会に分割し、3月5日総務分科会・3月6日文教厚生分科会・3月7日産業建設分科会を開会し、慎重に審査した結果、次のとおり個別意見（要望事項）を付して、賛成多数で認定することに決したので、会議規則第103条の規定により報告します。

### 1、審査の結果

議案第1号 平成24年度江田島市一般会計予算、議案第2号 平成24年度江田島市国民健康保険特別会計予算、議案第3号 平成24年度江田島市後期高齢者医療特別会計予算、議案第4号 平成24年度江田島市介護保険（保険事業勘定）特別会計予算、議案第5号 平成24年度江田島市介護保険（介護サービス事業勘定）特別会計予算、議案第6号 平成24年度江田島市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算、議案第7号 平成24年度江田島市港湾管理特別会計予算、議案第8号 平成24年度江田島市地域開発事業特別会計予算、議案第9号 平成24年度江田島市宿泊施設事業特別会計予算、議案第10号 平成24年度江田島市下水道事業会計予算、議案第11号 平成24年度江田島市交通船事業会計予算、議案第12号 平成24年度江田島市水道事業会計予算。

### 2、審査の概要

本委員会に付託された予算の審査に当たっては、本予算に組み込まれた事務事業が、各行政分野に適切に配分され、かつ、地域的な均衡が図られているかどうかの主眼を置き、地方自治法第97条第2項に規定されている市長の提案権を侵害しないように十分配慮し、議決権の範囲内で慎重に審査を行った。

### 3、審査意見

市財政を取り巻く環境は、集中豪雨・東日本大震災等の影響により、今後、一段と厳しさが増すものと思われま。

市政の発展は、健全な財政運営があつてこそ成し遂げられるものでありますので、職員一人ひとりが、市財政を取り巻く状況と中長期的行政課題を認識し、収納対策の強化と、国・県支出金等の特定財源の確保に努め、予算の執行に当たっては、審査の過程で出された各分科会からの個別意見等を参酌され、市民が安心して暮らし、真に江田島市の住んでよかったと実感できるような市政の実現を推進されたい。

以上で、報告を終わります。

○議長（上田 正君） これをもって山根委員長の報告を終わります。

これより、委員長の報告に対する質疑に入ります。

なお、委員長への質疑は、報告にあります委員会の経過と報告に対するものでござ

います。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

まず、本12議案それぞれに対する反対討論の発言を許します。

6番 片平議員。

○6番(片平 司君) それでは、平成24年度予算案に反対の立場から討論を行います。

ギリシャに始まったユーロ圏の債務危機は、他のユーロ圏の債務危機を引き起こし、これらの国の債務を大量に保有している銀行は、第2のリーマンショックにならないかと戦々恐々としております。

日本経済は深刻な円高の影響を受け貿易赤字に転落をし、中小零細企業の経営は一段と厳しさを強いられています。

国民の生活が第一とって政権交代を果たした民主党は、次々と政権公約を投げ捨て、もはや自民党以上の悪政の推進を行っています。

その最たるものが「社会保障と税の一体改革」と称して、消費税を2014年までに8%、2015年までに10%に増税するというものです。所得の少ない人ほど重くのしかかる最悪の不公平税制である消費税増税は、許されるものではありません。一体改革といいながら、年金支給額の引き下げ、支給年齢68歳から70歳への引き上げ、医療費窓口負担増など、庶民増税、社会保障切り捨てで最悪の国民犠牲です。

24年度江田島市予算は一段と進行する国の悪政から住民の暮らしと福祉を守る予算になっているのか。

平成24年度当初予算額は、前年度比較して、約6億円の増となっています。

主な要因は、能美中学校の新築事業、し尿処理更新整備事業、農林水産業費、土木費等です。

見過ごせないのは、昨年につき、オリーブ農地造成事業と小用開発事業への一般会計からの繰出金です。

小用開発事業は、江田島市の資料によりますと、昭和61年の新総合計画位置づけから始まり、平成9年の工事着工で現在小用港旅客ターミナルまで終わっています。

当初の計画では、平成19年ごろまでに完了の予定でしたが、社会情勢等の大きな変化で大幅に遅れ、平成30年代前半まで延期されたため、地域開発特別会計が借りたお金が支払われなくなったため、一般会計からの援助となりました。

オリーブ農地造成事業は、平成23年度から26年度までの予定で、総額約2.6億円をかけ、深江地区の山林12ヘクタールを開墾し、7ヘクタールの植栽面積を確保し、オリーブ栽培事業者へ土地を貸し付けるものですが、このオリーブ事業が非常に息の長い事業で、先行きは全くもって不透明であります。このオリーブ農地造成事業が江

田島市の農業振興の起爆剤になるか、または小用開発事業のように先が見えにくい難しい事業になるのではと危惧をするところです。10年、20年とかかるスパンの長い事業は、税金の無駄遣いにならないように、十分な精査を行い、事業を行うべきです。

次に、住民の生命と健康を守るための国保税と介護保険料が大幅に値上げをされました。市民生活は一段と厳しくなります。

江田島市の資料によりますと、夫45歳、収入が給与収入300万円、妻40歳、子ども未成年、資産なしで、現行31万7,600円が34万6,100円、2万8,500円の値上げになります。収入に占める国保税の負担率は一段と高くなります。

1980年には50%あった国の負担は、現在では25%以下に激減をしています。国に対して負担率の引き上げを強く求めると同時に、住民の健康に対する予防保全啓発が求められます。

このたび、介護保険料も月1,050円値上げされ、住民にとってはダブルパンチの負担増となりました。

景気低迷の中、貧困と格差拡大で苦しむ市民の福祉、生活を守るためには、一般財源から国民健康保険や介護保険、後期医療など、特別会計への財政支援措置による各保険料や利用料の負担軽減措置は緊急に求められています。

今こそ不要不急の事業を抜本的に見直し、生活密着型公共事業、地域循環型公共事業への転換を強く求めて、平成24年度会計予算案の反対討論とします。

○議長（上田 正君） 次に賛成討論の発言を許します。

3番 吉野議員。

○3番（吉野伸康君） 私は、平成24年度江田島市一般会計予算及び各特別会計予算に賛成の立場で討論をいたします。

昨年、我が国は、東日本大震災により、甚大な被害を受け、その傷跡は1年たっても癒えていません。

現在、国においては、復興庁を設立し、一刻も早い復興を目指して、国家一丸となって取り組んでいます。膨大なガレキの撤去、復興等により、財政状況が厳しくなっております。

一方、本市におきましては、少子高齢化が急速に進み、人口減少など、数多くの問題も山積みしております。

このような中、本予算は、市長が施政方針で述べたとおり、行財政改革の着実な推進による財源の確保、特色を生かした元気なまちづくりの推進を踏まえた新たな事業の着手など、財政の健全化と住みよいまちづくりのため財政支出がバランスよく盛り込まれたものと感じます。

よって、平成24年度江田島市一般会計予算及び各特別会計予算に対する御賛同を申し上げます。賛成討論といたします。

○議長（上田 正君） これで討論を終わります。

これより、本12議案について一括で採決を行います。

本12議案についての委員会の報告は可決すべきであるとするものです。

本12議案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

起立多数であります。

よって、本 1 2 議案は委員長の報告のとおり可決されました。

## 閉 会

○議長（上田 正君） 以上をもって、本定例会に付議された案件の審議は、すべて終了いたしました。

これで、平成 2 4 年第 1 回江田島市議会定例会を閉会いたします。

(閉会 1 1 時 4 7 分)